

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300511		
法人名	社会福祉法人 山口向陽会		
事業所名	日吉台グループホーム		
所在地	山口県山口市 陶 973		
自己評価作成日	平成24年11月12日	評価結果市町受理日	平成25年4月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年 12月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が住みなれた地域で、安心してホームで暮らせるように、日々、その方の思いを受け入れ、一緒に過ごす時間を大切にしている。毎月、様々な行事を行い、季節を感じていただき、楽しんでいただいている。毎月、グループホーム内の業務会議を行い、利用者様の情報が共有できるように、業務を見直し、改善をしている。また、毎月、法人内研修を行い、職員のスキルアップにつなげている。

毎週土曜日に事業所が主催される、併設している特別養護老人ホームや老人保健施設の利用者を招いての喫茶会を開催しておられ、利用者同士が交流を図られたり、併設施設で行われる幼稚園児や小学生、中学生との交流会に利用者に参加されるなど、法人施設内がひとつの地域として利用者が馴染みの関係の中で過ごせるように支援されています。運営推進会議での地区会長の意見から、地区の若い人たちとの関係が出来、地域の子どもたちとの交流が行われるようになる他、地域ボランティアの協力など地域との関わりを深めておられます。食事は法人からの配膳を利用されていますが、利用者が食器を選んで盛り付けをされたり、台拭きや配膳、下膳など一人ひとりができることを職員と一緒にしておられ、利用者職員が同じものを食べて、利用者に寄り添いながら食事が楽しめるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域の中で安心して生活できる暮らしを提供します」というホームの理念を掲示している。職員は、理念に沿って共通の意識のもと、利用者を支援している。	地域密着型サービスとしての理念をつくり、事業所内に掲示し、業務会議の中で理念の確認を行い、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内の併設の施設の利用者との交流がある。地域住民の方や学生さん達との交流会へも参加している。	自治会に加入し、地域の清掃作業に職員が参加している。地域のふれあい祭りに利用者や参加したり、併設施設での行事に参加し、幼稚園児、小学生、中学生と交流する他、来訪する地区ボランティアと一緒に、歌、踊り、ゲームなどを楽しんでいる。併設の特別養護老人ホームの行事(盆踊り、秋祭り)に参加し、来訪している地域の人と交流している。中学生の職場体験や実習生の受け入れがある。法人内施設の利用者同士の交流があり、毎週土曜日に、事業所で喫茶会を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、研修の報告も行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価についての説明を、職員に行い、各自が記入した意見をまとめ、また業務会議では、その内容や家族アンケートの内容を見直し、改善に取り組んでいる。	評価の意義や項目について、全職員に説明し、自己評価を配布して記入してもらい、業務会議の中で話し合っけてまとめている。昨年の自己評価を基に個人の目標を立て実践につなげている。外部評価結果については改善に向けて話し合っている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者状況、行事報告、研修報告等を行っている。現在のサービス内容だけではなく新しく取り入れることのできるサービスの検討をしている。	年4回開催し、利用者の状況、活動報告、研修報告、外部評価結果報告、防災対策について、事業所独自のマニュアルの報告などを行い意見交換をしている。地区会長の意見で、子どもたちとの交流が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数の検討 ・地域メンバーの拡大

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告や、意見交換の他に、市町担当者ととの連絡の取り合いは、機会として少ない状況。	運営推進会議で市の地域包括支援センター職員と情報交換する他、市の担当者との連絡は法人の担当者がとっている。2ヶ月に1回ある市の施設部会に出席し、情報交換を行うなど、市との協力関係を築くように努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修でも身体拘束の勉強会を行い、正しい理解ができるように取り組んでいる。	法人研修に全職員が参加し、虐待防止と併せて身体拘束について学び、職員は正しく理解し、スピーチロック、ドラッグロック、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修でも虐待防止の勉強会を行い、正しい理解ができるように取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について職員一人一人が理解しておらず、知識を深める為の勉強会が必要である。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族へは十分な説明を行い疑問が無いか確認をしている。また、疑問を持たれた時は、その都度、説明を行なっている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や、苦情があった際には、必ず「相談ノート」に記録し、早期に解決できるように取り組める体制を作っている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め家族に周知している。面会時や電話で聞く他、便りに意見を書く欄を設けて記入してもらっている。運営推進会議時(年4回)や家族会(年3回)でも、意見や要望を聞き運営に反映させている。秋祭りへの参加や、梅酒が飲みたい、漬物が食べたいなどの要望、体調管理についての意見があり実践している。家族会では、利用者、家族、職員と一緒に食事の準備をし、昼食を共にすることで、話しやすい雰囲気を作るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、業務会議を開催し、職員全員が参加し、意見交換をし、業務の見直しをしている。	全職員が参加している月1回の業務会議で意見や要望を聞く機会を設けている。日常の業務の後で、介護主任が職員から意見を聞いている。業務の時間の改善など運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が、向上心をもって働けるような環境作りに努めている。また、各担当を決め、役割分担をし、責任を持ち、仕事をしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの実際と力量を把握し、毎月の法人内研修を受ける機会の確保や、介護福祉士の国家試験対策講座も開催しており、スキルアップやトレーニングの機会を設けている。	外部研修の情報を提供している。法人研修は月1回テーマを決めて全職員参加で実施している。内部研修は業務会議の中で1時間程度(年1回)勉強会をしている。介護福祉士の資格取得のために月1、2回勉強会を実施する他、新人職員には介護主任が指導するなど、職員が働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外研修の機会を利用して、同業者との交流の機会は、設けてある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入前には、必ず何度か会って、直接本人からの要望を聞きだせる配慮をしている。また、徐々に、本人との距離を近め、一方的にならないように、関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入前には、必ず何度か会って、直接本人からの要望を聞きだせる配慮をしている。また、徐々に、本人との距離を近め、一方的にならないように、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と共に、状況にあった支援を一緒に考えている。また他職種との連携も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の暮らしや、その人の本意は何なのかを考え、意志を尊重している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況報告を行い、本人と家族の関係を考えながら、関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人間関係が、なるべく継続できるように、友人を訪ねたりできるように努めている。	法人の施設の利用者と馴染みの関係になって、利用者同士の交流があり、毎週土曜日には事業所で喫茶会をしている。月1回来訪する移動美容室の人とも馴染みになっている。家族の協力を得て、月1回の俳句会に参加する人や自宅への日帰り、外食、外泊、墓参り、法事への参加など、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	和める関係を作りながらも、一人の時間も大切にできるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、フォローできる範囲で声掛けをしたり、いつでも相談にのれるような支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月に1回のケアカンファレンスでは、必ず本人にも参加してもらい、思いや、要望を聞いている。その人にとって良い暮らしを考え、思いに沿った援助ができるように、職員・家族で情報を共有している。	センター方式のシートの活用や、日常の関わりの中で利用者の言葉や表情、行動を介護記録に記録して、業務会議で話し合い、職員全員で思いや意向の把握に努めて共有し支援している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族からも協力を得て、本人の生活歴の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態に変化がみられる人もいますが、日頃の状態を把握し、変化に気付くように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランのチェック表をもとに、3か月に1度のモニタリング、アセスメントを実施しており、必要に応じて、栄養士・医師の意見も聞きながら、ケア計画に反映している。	計画作成担当者、主任、利用者を担当する職員でサービス担当者会議を行い、本人、家族、医師、関係者の意見を参考にして話し合い介護計画を作成している。ケアプランチェック表に、実施状況を日々記録して、3ヶ月に1回のケアカンファレンスで全職員で話し合いモニタリングを実施し、見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	統一したケア記録だけではなく、BPSD症状が見られる方の状況を全職員が把握できるように、個別に情報共有ノートを作成して見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに沿ったサービスの提供ができるように、職員間で意見交換しており、柔軟な支援に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市報や回覧板などで、情報収集し、地域資源の活用につなげることができるように支援している。また、災害が起こった際には、地域の方の協力が得れるように連絡を取っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が、日吉台内科医院以外の場合には、家族の協力を得て、すぐに受診できるようにしている。また、個人の受診ノートを作成し、家族・医師・職員間の情報交換に活用し、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関外の受診は、家族の協力を得て行い、病院受診連絡ノートを活用して情報を共有している。必要に応じて往診もあり、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、看護師が健康チェックに来ており、利用者の健康状態等を報告している。体調変化があった際にも、すぐに報告し、指示を受け、内科受診や、適切な処置を受けることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院関係者との情報交換は、適宜行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化についての話し合いは、家族と早い段階で話し、法人内の施設の紹介、申し込みについての説明をしている。事業所で対応できることについて、関係者で方針の共有に努めている。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族、医師、職員、関係者と話し合い、法人内施設への移設も含めて支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故が起こった後には、カンファレンスを行い、事故の再発予防に努めている。また、業務会議の場で、緊急時を想定して訓練を行ったり、緊急時の対応マニュアルを準備している。	事故およびヒヤリはたと報告書に記録し、その場にいた職員や看護師と話し合っって対応策を検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。看護師の指導で応急手当や初期対応についてシミュレーションでの研修を実施しているが、定期的な訓練を実施するまでには至っていない。緊急時には、法人内の他施設からの協力が得られる体制がある。	・全ての職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、年2回の避難訓練を実施しており、実際に利用者も一緒に避難訓練に参加している。防災対策委員主体に災害対策マニュアルを法人内で作成している。また、改善していけるように追加や更新をしている。	法人で行っている年2回の火災時避難訓練（夜間想定を含む）に利用者と一緒に参加している。事業所独自のマニュアルに沿っての避難訓練をする他、運営推進会議で防災対策について話し合っている。法人と地域との連携や協力体制があり、施設は災害時の地域住民の避難場所となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、人生の先輩という意識をもって、言葉遣いに気をつけている。馴れ合いにならないように、意識している。特にトイレでの排泄介助時は、プライバシーを損ねない対応に心がけている。	法人の接遇研修で学び、職員は利用者に敬意を払って接し、羞恥心やプライドに配慮して誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、ゆっくりと自分の思いを話せる場を作るようにしている。自己決定できるようなゆっくりした言葉かけや、待つことも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、一人一人のペースに応じた生活時間が送れるように配慮している。無理強いないようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後には、髭剃りをしたり、お化粧の時間を設けたり、行事の日は、お化粧をするなど、おしゃれや身だしなみが整えられ、本人が楽しめる工夫をしている。個室には、洗面台と鏡を設置している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しくおいしく食事ができるように、食器を工夫したり、準備や食事、片付けまで一緒に、無理のないようにしている。	三食とも法人から配食で、管理栄養士の献立の栄養バランスのとれた食事を提供している。利用者が食器を選んで盛り付けをしている他、台拭きや配膳、下膳など出来ることを職員と一緒にしている。畑づくりで収穫した野菜を利用して年1、2回事業所で調理している。職員と利用者は同じ食卓で同じものを食べている。年3回の家族会で一緒に食事(どんぶりもの、手巻き寿司など)をつくって食べている。おやつづくり(どら焼き、あんみつ)、外食レクなど食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に基づいて食事は提供されており、食事量も記録している。本人の状態に合わせて、刻み食や、お粥で対応している。アレルギーのある方には、違う食材で食事を提供している。お茶の時間を設けて、水分補給をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しや、自力での口腔ケアが難しい方は介助し、清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排便チェック表があり、排便の有無や、緩下剤の使用もチェックしている。トイレで排泄できるように、一人一人に合ったパットや、紙パンツを使用しながら、支援している。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。各居室にトイレが設置しており、利用者の殆どが自立しているため、使用後の確認をするなどしてチェック表に記録している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表があり、排便の有無や、緩下剤の使用もチェックしている。水分摂取にも気をつけている。スポーツドリンク等での補給も行っている。毎日の上下肢運動を取り入れている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望時に入浴していただいている。季節に応じて、菖蒲湯や、柚子湯等にして楽しめる工夫もしている。	入浴は毎日13時30分から15時30分まで可能で利用者の希望や体調に合わせて、2ヶ所の風呂を利用できるようにして、利用者がゆっくり入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない人には、言葉かけに工夫したり、足浴などで対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室は、全てベッドを使用しており、毎週1回、寝具の交換を行っている。枕元には、ナースコールが設置してある。日中も疲れたらすぐに休めるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が何の薬を飲んでいるのか、わかるように表にしている。服薬は必ず手渡しし、飲み込むまでの確認を行っている。副作用についても、理解できるように努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の裁縫や、編み物、俳句など、張り合いや喜びのあることに対して、個別に支援できるように努めている。	テレビ視聴（バラエティ、情報番組）、新聞を読む、写経、俳句、習字、自叙伝の作成、年賀状づくり、季節ごとの飾りづくり、体操（ラジオ、CD）下肢運動、ボーリング、輪投げ、ドリル、カルタ、トランプ、すごろく、雑巾縫い、行事（運動会、誕生会）、ドライブ、掃除、食事の準備、洗濯物たたみなどの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内への散歩や、お地蔵様へのお参り、売店への買い物等、できる限り一人一人に合った外出支援ができるように努めている。季節行事としては、花見や、食事会、紅葉狩り、喫茶店への外出を行っている。	法人敷地内の散歩や併設施設の売店での買い物、花見、食事会、紅葉狩り、喫茶店など、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、原則して現金は所持できないことを説明をしている。ショッピングなどの外出時には、本人にも支払いをしてもらっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたり、家族がかけてきたりしている。手紙のやり取りもできるように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、天窗もあり明るく開放的な作りとなっており、ソファや、テーブルが設置しており、家族がゆっくりと過ごせる環境を工夫をしている。加湿器、床暖房も設置しており、快適な空間作りに配慮している。	共有空間は天窗や窓からの自然な採光で明るく、広々としている。テレビ、テーブル、椅子、ソファが配置しており、壁面には季節に合わせた作品や利用者の写真が飾ってある。温度、湿度、換気、音などにも配慮して利用者がそれぞれの居場所でくつろげるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室から出ると、共用空間になっており、ソファやテーブルがすぐがあり、くつろいで過ごせるように配置している。一人になりたい時には、居室であったり、ホール内の各所に座るスペースの確保がされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇や、絵、使いなれている机やダンス等の持ち込みができるようになっている。机や布団も使いやすい物を持ち込んだり、本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	テレビ、机、椅子、布団、毛布など使い慣れた物や好みのもの、アルバムなどを持ち込み、家族の写真や絵、作品を飾り、居心地よく過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全安心に生活できるように、フローリングには全て段差はない環境にしている。居室の区別がつきにくい方には大きく表札をつける等の工夫をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 日吉台グループホーム

作成日: 平成 25年 4月 20日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・緊急時の対応を職員一人で行うことも想定されるが、新しい職員が配属されたこともあり、緊急時の対応がスムーズにできるか不安である。	・緊急時に、一人でも、落ち着いて対応が出来る。また、他職員と連携ができ、スムーズな対応ができる。	・内部・外部での研修に参加して、研修内容を業務会議時等に実践を交えて振り返り、全職員に周知徹底する。 ・事例を取り入れ、対応方法や連絡体制を確認する。	6ヶ月
2	39	・新年度になり、新しい職員が配属され、改めて勤務体制の見直しと、利用者の情報の共有を職員間で行い、一人一人に合った関わりを行う必要がある。	・先輩職員と、新しい職員が連携を図り、協力して利用者の情報を共有し、統一したケアができる。	・職員一人一人が目標を持ち、業務に取り組み、利用者一人一人に合ったペースで関わる。また業務会議を利用して職員同士がお互いの行動を見直し、良いところは評価し、改善すべきところは、見直す。	6ヶ月
3	14	・法人内の研修は定期的で開催しており、参加しているものの、外部の研修への参加が少ない。	・職員一人一人が、研修参加への意欲を高め、知識と技術の向上に努める。	・法人内の研修だけではなく、外部の研修にも参加しやすいように研修の情報を提供して参加しやすくする。職員が参加した研修内容を業務会議の時に報告し、業務を活用する。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。